

3-2-6 日本出版の年少者向け国語教材

(光村図書、教育出版)

(1) 学校の方針と本教材

日本で出版されたいわゆる『国語教科書』は、教材として中南米で多く使用されている。その出版元種類としては、光村図書がとりわけ多く、以下教育出版、東京書籍と続いている。国語教科書は国の偏りなく、西語圏全体に多く採用されており、その採択は個々の好みというより、学校全体の意向として採択している。

学校あげて国語教科書を採用する背景には、中南米における日本語学校が掲げている教育方針が大きく影響していると考えられる。各学校のほとんどは、日本語を教えることの他に、「日本文化に対する理解を深める」「情意面の発達に働きかける」「日系人としての自信を持たせる」といった方針を掲げている。この方針なり理念が、国語教科書によって充足されると見る感がある。日本文化・人間形成面の指向と国語教科書の使用が相互補完的に捉えられている感が強い。国語教科書は「日本文化が入っていて、日本の文化も教えられるから」という、教師の認識の仕方である。このことは父母の希望にもかなうものであり、「以前から使用していたから」という国語教科書の使用は、伝統的にそれ自体に日系人としての安心感につながるものであった。

しかし、近年、学習者の日本語の不足に国語教科書では対応しきれなくなり、国語教科書の使用がゆれて来ている。国語教科書が「生徒のレベルに合わない」という実態である。日本語能力が十分なうちは国語教科書でこそ対処できていたものが、時を経る中で、国語教科書の内容、国語教科書的使用方法では、次第に効果が見られなくなって来たのである。その現実の中で、各々の学校は、国語教科書の使用についてとまどいながらゆれているといった傾向にある。

こういったゆれやとまどいの大小は、各学校におけるカリキュラムの有無とも関わっていると思われる。つまり、カリキュラムの整っていない学校ほど国語教科書を主に使用していることが多く、カリキュラムのある学校ほど既に国語教科書の使用に工夫や改善を施している傾向にある。日本語能力が十分なうちは、カリキュラムも特に必要なく、経験的に国語教科書でまかなっていた。しかし、日本語能力の形成を意識し、カリキュラムの検討を始めると従来の国語教科書のみの使用では対応しきれなくなった。そこで昨今、国語教科書を主にしつつも他教科書・教材の採用・併用の試みが増えている。国語教科書のみにまかなっている、という学校は見当たらなくなっている。結局のところ、従来からの国語教科書への指向も捨てきれず、種々の試みの中、何とかせねばといったあせりの感のある現況である。

(2) 対象者の特性と本教材

日本語能力が十分な頃は、学習者の生活年齢または学齢（いわゆる何年生という区分）は、国語教科書の編成学年と対応していた。つまり、1年生なら国語教科書の1年生（上）（下）、2年生なら国語教科書の2年（上）（下）というようにである。これはまた、成長段階の目安ともなり、日本の国語教育での取り扱いと同様に、国語教科書1年（上）→（下）→国語教科書2年（上）→（下）

……と段階的に使用されていた。このことは即、日本語を診断する基準でもあったのである。

しかし、近年の日本語の不足が、国語教科書のこうした使用では効果をあげなくなった。つまり、学齢と国語教科書の編成学年との並行が対応しなくなって来たのである。そこで、この対応の仕方をずらすことが起きた。たとえば、学齢3年生で、国語教科書の2年（下）まで終わる、というような工夫である。以下、順次、学年をずらして対処をしている。しかも、このずらし方の幅は、次第に大きくなっている傾向にある。つまり、かつては6年生で国語教科書の5年（下）までだったのが、最近では5年（上）または4年（下）まで、というようにである。ただ、このやり方は学習者に自分の学齢よりも下の学年の国語教科書を使うという、心理的抵抗感も生んでいる。

いずれにしても、日本語不十分な者にも、学年をずらすなどのやり方で、無理をして国語教科書を使用している状況が多い。依然としてその学年の前後にも国語教科書を使用し、国語教科書が日本語力の基準になっている点は変わっていない。国語教科書を順ぐりに教えていくという指導のあり方である。

しかし、こうした国語教科書の取り扱いが最近の対象者に適切でないことは、教師も大いに意識しているところである。明確な改善方法がつかめないでいるのである。そして、徐々に様々な工夫がなされ始めているこの頃である。その工夫の主なものは、日本語能力のある学習者には国語教科書を、そうでない者には他教材を、というやり方である。要は、国語教科書と、いわゆる日本語教育用教材の併用である。その方法には、学習者による国語教科書と日本語教育用教材の使い分け、国語教科書と日本語教育用教材のつなぎ、などの併用が行われている。しかし、従来国語教科書を使用して来た学校で、全面的に日本語教育用教材に変更したという学校はなく、いずれも何らかの形で国語教科書を残している。

(3) 教室活動と本教材

国語教科書が旧来日本語能力のある学習者を対象に使用されて来たことから当然と言えるのだが、教室活動として国語教科書は「読むこと」の領域指導のために最も多く使用されている。読むことのためといっても、現実には、読解指導のためである。その読解指導の内容は、日本の国語教科書用指導要領の内容に準じたものであり、「登場人物の気持ちを読み取ろう」「場面の様子を想像しよう」といった理解活動である。日本語教育的な言語事項のていねいな指導はきわめて少ない。

しかし、こうした国語教科書の使用の仕方も、学習者の日本語能力の変化に適さなくなっている。読みについても、平仮名を読むのがやっとなんかというように変化して来た学習者にとっては、漢字の読みや文意の読み取りなどにも大いに困難を来し、読解学習としての成果をあげられなくなっている。また、その読解も、現状では、国語教科書の（上）（下）の掲載順に教材を履修する形がほとんどで、読みを支える言語事項や言語技術の体系立った指導は見られない。

読解の次に多く報告されているのは、国語教科書を「書くこと」に使用しているというものである。が、それを実際にどのように行っているのかの詳細は不明である。よく見られるのは、国語教科書に出て来た漢字・語彙を筆写し、練習する活動である。ただし、体系立ったそれではなく、出て来たところという場あたりのやり方がほとんどである。国語教科書の中にある作文用単元が、

作文指導に活用されているという例もない。

少数だが、国語教科書を用いて「聞くこと、話すこと」を指導しているとの報告もある。が、実際の詳細は全く不明である。おそらくは、国語教科書に出てくる言語形式を単に音声化しているものと思われる。

結局、国語教科書は読解のために主に使用し、同時に漢字の書き取りに利用していることが多い。そして最近では、いずれの領域についても国語教科書のみではまかない切れず、他教材・教具で補い始めている。しかしそれはまだ補っているという感であり、他教材・教具の開発も少ない。全領域の体系化や教材・教具の開発を切望し始めた今、というところである。

(4)教授者との考え方と本教材

従来から国語教科書を使用して来ている教師ほどそれへの満足度が大きい。伝統的な慣れ親しみや日本的文化や人間形成的な内容への親近感から、日本語教育用教材への切り換えは心情的にも難しさがある。もっとも、その日本的文化とは何なのか、異言語学習の功罪とは、などについての検討はなされていない。

国語教科書の学年編成についての、日本語面についての先入観も強い。それは、学年編成に比例して語彙や漢字なども段階的に提出されているのだとの見方であり、したがって国語教科書の学年に従って教えていけば体系的に日本語も修得されていくとの見方である。この体系性についての妥当性の吟味は全くされないままに、むしろ有効なのだと思われている感が強い。このことは、国語教科書への物語文や説明文の内容も学齢に合っていて、人間形成上にも向いているとの見方にもなっている。こうしたことから、国語教科書に満足したり適切と感じている意識も一方に強い。

しかし、全体的にはやはり、学習者の日本語能力の変化に国語教科書は適切でない、との自覚が増加中である。学習者の実態に国語教科書がそぐわなくなっているとの認識である。読解指導のためのみならず、他の領域のためには国語教科書は一層そぐわず、何とかしたいとの思いで、種々模索中といったところである。日本語能力形成のために国語教科書を捨てても日本語教育用教材に変えなければとの意識も大きくなりつつある。「子どものための会話用教材がほしい」「文法や文型がきちんと理解できるような教材がほしい」「日本語能力試験に対応した内容の教材がほしい」といった希望が多くなっているのである。

こうした動向の中で、改めてカリキュラムあるいはシラバスの作成こそが先決との考えも出て来ている。たしかに、そうでないと、国語教科書や日本語教育用教材の使用についての検討の視点も持てずにいることになるからである。工夫や改善をこらしたくとも、何をどのようにしたらよいかの観点が見出せないからである。カリキュラム不整備の現状では、既製の日本語教育用教材の採用が徐々に増えつつある。その日本語教育用教材についても、当該学校独自の十分な吟味は見られない中、ましてや国語教科書を日本語教育的に取り扱おうとの見識は見られない。こうしたゆれ動きの中、いずれにしても国語教科書を捨てたくないとの意識は一方に厳と感じられる。

(5)考察

昨今の学習者の実態の中で、国語教科書の従来のままの内容や使い方は無理であり、日本語教育の方向に見合う教材化の希望が高まっている。しかし一方で、依然として国語教科書への思いも強い。こうした中で、カリキュラムを優先し、そのための教材という冷静な検討も必要であろう。いずれにしても、国語教科書をも捨てず、むしろ国語教科書も生かして学習者の実態に応じていく方向をさぐれないだろうか。すなわち、様々な角度から国語教科書を日本語教育に活用する方法を考えてみることに意義があると考え。換言するなら、汎米風に、日本語教育と国語教育を統一する試みといってもよい。

アンケート内容及び集計結果

1. 対象

1-1 この教科書を使っているクラスはいくつありますか。

1-2 そのクラスはどんなクラスですか。

1-3 そのクラスの生徒たちはいつもどんな場面で日本語を使っていますか。

1-4 そのクラスの生徒たちの日本語のレベルはどのくらいですか。

文字を読む力

A: 漢字がよく読める(1000字以上) B: 漢字が少し読める(1000字未満)

C: かなが読める

読解力

A: 上級程度 B: 中級程度 C: 初級程度

書く力

A: 報告書や感想文等いろいろな文が書ける B: 短い作文が書ける C: 簡単な文が書ける

D: 単語が書ける

話す力

A: 普段の生活に不便はない B: 簡単な文を並べて何とか伝える C: 単語や挨拶程度

聴解力

A: 普段の生活に不便はない B: 家庭で使うことばがわかる C: 習ったことのある簡単な文がわかる

D: 単語や挨拶程度

教師の指示

A: 日本語だけでわかる B: 簡単な日本語ならわかる C: スペイン語がないとわからない

国名	使用教科書名	1-1	1-2					1-3	1-4								
		使用クラス数 全クラス数	クラス名	生徒数	年齢	学年	学習歴	能力差	家庭 学校 それ以外	文字 を読む 力 A B C	読解力 日本の 学校の 教科書 で		書く 力 A B C D	話す 力 A B C	聴解 力 A B C D	教師 の指 示 A B C	
アルゼンティン	光村図書1、2年	4	小学3年クラス	9名	9~10歳	3年生	3年	少しある	1名	10%	1年	40%		0%	0%	0%	20%
ブルサコ日本語学園		9							8名	50%	1年	50%		10%	20%	20%	70%
									0名	40%	2年生	10%		40%	80%	50%	10%
アルゼンティン	光村一下ともだち	1	小学2年生	9名	7~8歳	2年生	1年	あまりない	6名	0%	1年生	100%		0%	100%	100%	100%
ラ・プラタ日本語学校		10							9名	100%		10%	0%	0%	0%		
									0名	0%		90%	0%	0%	0%		
アルゼンティン	光村三上わかば	1	小学5年生	8名	10~11歳	5年生	4年	少しある	3名	85%	1年生	15%		0%	75%	100%	100%
ラ・プラタ日本語学校		10							8名	15%	2年生	85%		85%	25%	0%	0%
									0名	0%		0%	0%	0%	0%		
アルゼンティン	光村一上かざぐるま~四	2	中級、上級	20名	~17歳	3年~中	3~10年	大きな差がある	2名	60%	2年生	40%		70%	70%	70%	80%
アルト・バラナ日本語学校		4							18名	40%	3年生	40%		10%	25%	20%	20%
									0名	0%	4年生	20%		10%	5%	0%	0%
パラグアイ	光村一上かざぐるま	1	小学部1年	15名	6~11歳	1~5年生	1~2年	大きな差がある	7名	12%	1年生	80%		0%	20%	10%	50%
イグアス日本語学校		9							8名	18%		20%	20%	20%	20%	20%	
									0名	70%		60%	60%	50%	30%		

国名	使用教科書名	1-1	1-2					1-3	1-4								
		使用クラス数 全クラス数	クラス名	生徒数	年齢	学年	学習歴	能力差	家庭 学校 それ以外	文字を 読む力 A B C	読解力			書く 力 A B C D	話す 力 A B C	聴解 力 A B C D	教師 の指 示 A B C
											日本の 学校の 教科書 で	A B C	A B C				
パラグアイ	光村 あおぞ ら	1	小学部 4年	26名	9~ 13歳	3年~ 中 学1年	3~5 年	大き な差 がある	13名	60%		50%	15%	85%	60%	70%	
イグアス日本語 学校		9							13名	38%		40%	27%	15%	30%	30%	
パラグアイ	光村 六下 きぼう	1	13名	13~ 14歳	中1	6~8 年	少し ある	12名	60%	3年生 10%	20%	30%	90%	90%	90%		
イグアス日本語 学校		9						13名	30%		50%	40%	10%	0%	10%		
ボリヴィア	教育出 版 二 年上下	3	3年	17名	9~ 10歳	3~4 年生	3~4 年	少し ある	11名	65%	1年生 100%		10%	65%	65%	65%	
サン・ファン学 園		12							17名	35%	2年生 100%		80%	35%	12%	0%	
ボリヴィア	教育出 版 四 年下	2	6年生	16名	11~ 12歳	6~8 年生	6~8 年	少し ある	14名	30%	3年生 30%		10%	80%	90%	95%	
サン・ファン学 園		12							16名	70%	4年生 70%		80%	20%	0%	5%	
ボリヴィア	教育出 版 6年 上下	2	日本語 普通ク ラス8 年	13名	12~ 13歳	7~8 年	7~8 年	少し ある	13名	100%	5年生 8%		100%	100%	100%	100%	
サン・ファン学 園		12							13名	0%	6年生 92%		0%	0%	0%	0%	

国語教科書（光村図書、教育出版）

3. 教授者

3-1 この教科書を使っている教師は何人いますか。またその内訳は。

3-2 では、その教師の中で、日本語教育の専門研修を受けた人は何人いますか。

それはどんな研修ですか。

A: JICA の汎米研修 B: JICA の日本語教師研修 C: 国際交流基金の日本語教師研修 D: その他

3-3 先生たちの日本語教育経験はどのくらいですか。

国名 学校名	使用教科書名	3-1						3-2				3-3 教育経験	
		全教師数	使用教師数	教師1世	教師2、3世	シニア	青年	研修歴	A	B	C		D
アルゼンティン ブルサコ日本語学園	光村図書1、2年	9名	4名	1名	3名	0名	0名	3名	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			6年10ヶ月
アルゼンティン ラ・プラタ日本語学校	光村一下ともたち	6名	5名	1名	3名	0名	1名	4名	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			6年～17年
アルゼンティン ラ・プラタ日本語学校	光村三上わかば	6名	5名	1名	3名	0名	1名	4名	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			6年～17年
アルゼンティン アルト・バラナ日本語学校	光村一上かざぐるま～四	5名	3名	2名	0名	1名	0名	3名	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	1年6ヶ月～25年 国立国語研究所、大学学部
パラグアイ イグアス日本語学校	光村一上かざぐるま	10名	1名	7名	2名	1名	0名	3名	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		11ヶ月～20年
パラグアイ イグアス日本語学校	光村あおぞら	10名	1名	7名	2名	1名	0名	3名	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		11ヶ月～20年
パラグアイ イグアス日本語学校	光村六下きぼう	10名	1名	1名	0名	0名	0名	3名	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		1～20年
ボリビア サン・ファン学園	教育出版 二年上下	8名	3名	1名	2名	0名	0名	3名	<input type="checkbox"/>				1年～3年
ボリビア サン・ファン学園	教育出版 四年下	8名	2名	2名	0名	0名	0名	2名	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			3～30年
ボリビア サン・ファン学園	教育出版 6年上下	8名	2名	1名	0名	1名	0名	1名	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			30年～35年

4. 教室活動

4-1よくする活動を選んでください。

本文や会話を

- A: 読み聞かせる B: 読ませる C: 訳させる D: 書かせる E: 覚えさせる F: 会話させる
G: 演じさせる H: その他

新しい文型を

- a: 読ませる b: 訳させる c: 話させる d: 書かせる e: 覚えさせる f: その他

新しいことばを

- あ: 読ませる い: 訳させる う: 話させる え: 書かせる お: 覚えさせる か: その他

新しい漢字を

- ア: 読ませる イ: 書かせる ウ: 覚えさせる エ: その他

絵・音楽・体の活動

- 1: 絵を書く 2: 歌を歌う 3: 踊る 4: 工作する 5: 紙芝居 6: ゲーム 7: スポーツ
8: 活動その他 9: しない

		4-1																															
国名	使用教科書名	本文や会話								新しい文型						新しいことば				新しい漢字			絵・音楽・体の活動										
学校名		A	B	C	D	E	F	G	H	a	b	c	d	e	f	あ	い	う	え	お	か	アイ	ウ	エ	1	2	3	4	5	6	7	8	9
アルゼンティン	光村図書1、2年	<input type="checkbox"/>																															
ブルサコ日本語学園		H:その他の内容								f:その他の内容						エ:その他の内容				9:その他			9:その他の内容										
アルゼンティン	光村 一下ともたち	<input type="checkbox"/>																															
ラ・プラタ日本語学校		H:その他の内容								f:その他の内容						エ:その他の内容				9:その他			9:その他の内容										
アルゼンティン	光村 三上わかば	<input type="checkbox"/>																															
ラ・プラタ日本語学校		H:その他の内容								f:その他の内容						エ:その他の内容				9:その他			9:その他の内容										
アルゼンティン	光村 一上かざぐるま~四	<input type="checkbox"/>																															
アルト・バラナ日本語学校		H:その他の内容								f:その他の内容						エ:その他の内容				9:その他			9:その他の内容										
パラグアイ	光村 一上かざぐるま	<input type="checkbox"/>																															
イグアス日本語学校		H:その他の内容								f:その他の内容						エ:その他の内容				9:その他			9:その他の内容										
パラグアイ	光村 あおぞら	<input type="checkbox"/>																															
イグアス日本語学校		H:その他の内容								f:その他の内容						エ:その他の内容				9:その他			9:その他の内容										
パラグアイ	光村 六下きぼう	<input type="checkbox"/>																															
イグアス日本語学校		H:その他の内容								f:その他の内容						エ:その他の内容				9:その他			9:その他の内容										
ボリヴィア	教育出版 二年上下	<input type="checkbox"/>																															
サン・ファン学園		H:その他の内容								f:その他の内容						エ:その他の内容				9:その他			9:その他の内容										

		4-1																															
国名 学校名	使用教科書名	本文や会話						新しい文型						新しいことば			新しい漢字			絵・音楽・体の活動													
		A	B	C	D	E	F	G	H	a	b	c	d	e	f	あ	い	う	え	お	か	ア	イ	ウ	エ	1	2	3	4	5	6	7	8
ポリヴィア	教育出版 四年下	<input type="checkbox"/>																															
サン・ファン学園		H:その他の内容	f:その他の内容						エ:その他の内容			9:その他			9:その他の内容																		
ポリヴィア	教育出版 6年上下	<input type="checkbox"/>																															
サン・ファン学園		H:その他の内容	f:その他の内容						エ:その他の内容			9:その他			9:その他の内容																		

国語教科書（光村図書、教育出版）

4-2 どんな形態で活動しますか。

4-3 この教科書を使うとき、どんな補助教材・教具を使いますか。

A: テープ B: ビデオ C: 絵カード D: 文字カード E: ドリル帳 F: その他

4-4 スペイン語を使いますか。

国名	使用教科書名	4-2					4-3						4-4		
		一斉授業	グループ ア・ペア	個別授業	その他の形	複式授業	補助教材						スペイン語		
							A	B	C	D	E	F			
アルゼンティン ブルサコ日本語 学園	光村図 書1、 2年	いつも	ときどき	ときどき		ときどき	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	F:その他の内容				ときどき使う
アルゼンティン ラ・プラタ日本 語学校	光村 一 下 ともだ ち	いつも	ときどき	しない		ときどき	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	F:その他の内容				使わない
アルゼンティン ラ・プラタ日本 語学校	光村 三上 わかば	いつも	ときどき	しない		しない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	F:その他の内容				使わない
アルゼンティン アルト・バラナ 日本語学校	光村 一 上 か ざ く る ま ~ 四	いつも	ときどき	いつも		いつも	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	F:その他の内容				ときどき使う
パラグアイ イグアス日本語 学校	光村 一 上 か ざ く る ま	いつも	ときどき	ときどき			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	F:その他の内容				よく使う
パラグアイ イグアス日本語 学校	光村 あ お そ ら	いつも	ときどき	ときどき		ときどき	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	F:その他の内容				ときどき使う
パラグアイ イグアス日本語 学校	光村 六 下 き ぼ う	いつも	しない	ときどき		しない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	F:その他の内容				使わない
ボリビア サン・ファン学 園	教育出 版 二 年 上 下	いつも	ときどき	しない		しない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	F:その他の内容 CD、掛図				
ボリビア サン・ファン学 園	教育出 版 四 年 下	いつも	ときどき	ときどき		しない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	F:その他の内容 CD				使わない
ボリビア サン・ファン学 園	教育出 版 6年 上 下	いつも	ときどき	ときどき		しない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	F:その他の内容 CD				

国語教科書（光村図書、教育出版）

5. 教科書の選択と関連性

5-1 使う教科書はどうやって選ぶのですか。

A: 教師が選ぶ B: 担任が選ぶ C: 相談して選ぶ D: 学校が決める E: その他

5-2 この教科書が選ばれた理由は何ですか。

5-3 この教科書はこの学校でどのくらいの期間使われていますか。

5-4 この教科書が終わった生徒には、次にどんな教材を使いますか。

5-5 この教科書に入る前に生徒は、どんな教材を使って勉強しましたか。

国名	使用教科書名	5-1					理由	期間	5-4		5-5
		A	B	C	D	E			次に進む教材名	未定	
学校名								著者・出版社		著者出版社	
アルゼンティン ブルサコ日本語 学園	光村図 書1、 2年	○					学校に保管され ているから	6年	文化初級/新日本語の基 礎 文化外国語専門学校/刈 エーネットワーク		一三三、日本語ではなし ましょう 日本語普及センター(アラジル)
アルゼンティン ラ・プラタ日本 語学校	光村 一上 ともだ ち		○				以前から使用し ていた 入手が 可能	8年	こくご二上 たんぼほ 光村図書		こくご一上 かざぐるま 光村図書
アルゼンティン ラ・プラタ日本 語学校	光村 三上 わかば		○				以前から使用し ていた 入手が 可能	8年	国語三下 あおぞら 光村図書		こくご二下 赤とんぼ 光村図書
アルゼンティン アルト・巴拉ナ 日本語学校	光村 一上か ざぐる ま~四		○				こくご一上から 漢字、語彙を積 み上げていくこ とができる	1年	国語四下 光村図書		よいこのほんご 日本語教師応用コース第1グル ープ
パラグアイ イグアス日本語 学校	光村 一上 かざぐ るま		○				能力に合ってい る	36年	こくご一上 ともだち 光村図書		
パラグアイ イグアス日本語 学校	光村 あおぞ ら		○				生徒の能力に 合っているから	36年	かがやき 光村図書		わかば 光村図書
パラグアイ イグアス日本語 学校	光村 六下 きぼう		○				以前から使用さ れていたから		国語 光村図書		国語 六上 創造 光村図書
ボリビア サン・ファン学 園	教育出 版 二 年上下			○			日本の文化を学 習し、学べる	6年	国語3年 教育出版		国語1年 教育出版
ボリビア サン・ファン学 園	教育出 版 四 年下			○			教えやすい 日 本文化が入って いる	6年	国語5年上 教育出版		国語3年 教育出版
ボリビア サン・ファン学 園	教育出 版 6年 上下			○			教えやすい 日 本文化が入って いる	6年	これで終了		国語5年 教育出版

4. 考察と展望

4-1 考察

今回の調査は教材に的をしばった小規模なものであったが、今後の中南米・スペイン語圏における日本語教育教材の在り方に示唆を与えている。日本語教育の現状調査では、いつの時代でも「適切な教材がない」という回答が多く寄せられるが、今回も満足度が50%程度の教科書も多い。そして、調査回答校の多数が複数の教科書を組み合わせて使用している状況にある。以前の「教科書がない」という声の背後には経済的・物理的に入手困難であるといった、文字通り教科書がないことを意味したのも多かったが、それはかなり解消していると言ってよい。しかし、いくつもの教材の中から選択すること、組み合わせて使用することが可能な状況になってもなお、「適切な教科書がない」という声が強いのとはなぜか。以下に教科書別分析をもとに問題点を考えてみたい。

教科書別分析が指摘する「乖離」

詳細調査の対象とした教科書は、以下の通りである。

教科書略称	教育タイプ	開発時の対象	中南米利用者
3-2-3 ひろこさん	第二言語教育	国内在住外国人年少者（9歳前後）	年齢幅大
3-2-4 みどり先生 一、二、三 日墨学院	外国語教育 同 同	アルゼンティン在住年少者 ブラジル在住年少者 メキシコ在住年少者	本来の対象 西語圏年少者 本来 + パルー在住者
3-2-5 新基礎	第二言語教育	国内在住外国人成人	年齢幅大
3-2-6 国語教科書	国語教育	国内在住日本人年少者	西語圏年少者

この一覧からも、一見選択肢が増し、恵まれた状況になったと思われる教材事情が必ずしもそうとは言えないことがわかる。『ひろこさん』と『新基礎』は教育タイプを「第二言語教育」という言葉でくくったが、国内在住の外国人子弟・成人が、国内の学校・職場で、日本語を用いて機能できるようなことを目標としている。自国でスペイン語を用いて、学校・職場で機能できる状況にある学習者を対象としているわけではない。にもかかわらずこれらの教材が選択される背景には、中心シラバスが文型・文法であるとか、対象年齢が近い点などがあり、基本的な目標の「乖離」にはあえて目をつぶっているという状況がある。

3-2-3 から 3-2-6 までの教科書別分析では、他にも様々な「乖離」が指摘された。教授者の考え方や教材制作者の意図との乖離、学校のカリキュラムと現実の授業との乖離、教室活動と使用教材が意図する学習活動との乖離などである。以下の指摘もある。

【一、二、三】、および、【新基礎】	教授法の乖離→教師の教授法研修の必要性
【みどり先生】	対象者との乖離（生徒が好まない）
国語教科書	日本語能力との乖離（生徒のレベルに合わない。 学齢が下の教科書の使用で心理的抵抗感を生んでいる。）

なかでも、強く指摘されたのが、教科書の制作者が育成しようとする言語技能と教授者の考え方との乖離である。見方を変えれば、教授者は自身の考え方に適合する教科書がないために、各教科書を調整しつつ利用しているということになる。

本来の開発の場を離れた教科書が、別の教育現場において調整されつつ利用されるのは当然のことであり、むしろ、調整を経ないことのほうが問題ではある。しかし、言語技能の点では会話力育成に向く教科書が求められているが、それにふさわしい教科書も教室活動も用いられていないといった例や、意図的に文字を排除している教科書が読み書き教育に用いられるといった例は、あえて独創性を求めて選択がなされたというより、選択の幅が限られていたということを感じさせる。従って、既存の教科書選択に関する情報の普及の不充分さが問題点としてあげられよう。それでは情報が普及すれば、既存の教科書の組み合わせ次第で、スペイン語圏の21世紀の多様な学習者に適切な教育が提供できるのであろうか。

現場がはらむ「乖離」

中南米諸国の日本語教育に限ることではないが、21世紀に向かう中南米諸国の教育現場もさらなる「乖離」をはらんでいるように思われる。以下は主要なものである。

1. 保護者が日本語学習の意義を感じ、かなりの子供の世代を学習の場におくりこむが、子供の世代はその意義が見えていないという、世代間の乖離。
 2. 日本の漫画やアニメ、テレビゲームにカラオケといったものに学習者自身の日本語開始や学習継続の動機付けがあるが、そのようなメディアが教室内では生かされていないという学習動機と学習手段との乖離。(ここには著作権の問題などもからんでくる。)
 3. 英語学習などはCAI教材なども取り入れた現在の子供の学習スタイルに合ったものなのに、日本語教育は昔ながらの教科書と練習帳のみであることが多いという、他の外国語教育と日本語教育との乖離。
 4. 日本語教室外ではスペイン語を用い、様々なメディアを用いて生活しているにも関わらず、日本語教室内では原始メディアを用いて座学中心に進めるという、学習者の言語生活と教室内の学習手段との乖離。
 5. 日本語学校で習ったことが現在の生活では実践する場がないという、教育とコミュニケーションの実践の場との乖離。
 6. 年少者向け外国語教育では、コミュニケーションの多様な側面および他教科との連携などに配慮した教育全般を考える教材・教授法が望ましいにも関わらず、現状の日本語教材はほぼ狭義の言語領域に留まり、また、現地の学校教育との連携も持ちえていないという教育上の乖離。
- 今回の調査が示すところでは、調査方法も影響しているとは思われるが、使われている教材は印刷メディアが圧倒的である。国語教科書は当然のこと、日本語教科書も印刷メディアが多い。

ひろこさん 印刷メディア (各種練習帳、絵カード、教師用指導書)

みどり先生 印刷メディア (各種練習帳、絵カード)

新基礎 印刷メディア (絵カード、文字カード)、テープ、ビデオ

ここには経済的基盤や教師の老齢化などの要因があると思われるが、21世紀において、現状維持に留まっていけないのではないか。

4-2 課題と展望

4-2で課題と展望をまとめるにあたって、まず、各教科書分析で指摘された具体的な問題点と提言の部分の引用を試みたい。ただし、紙幅の関係上、文言を省略したり変えさせていただいた部分もあるので、意図が多少ずれる部分もあることを恐れる。詳しくは3-2をご参照いただきたい。

(1) 学習者についての問題点および提言

- 1) 学習者の年齢が幅広く、必ずしも特定の教科書の対象者（例えば9歳といった年齢の学習者）と一致するわけでない。→学習者の年齢に合わせたものに置き換える等の工夫が必要である。【ひろこさん】
- 2) 日本語使用範囲が学校の中だけに限られている学習者が多い。【ひろこさん】
日本語使用に関しては【学校で】が【家庭で】を圧倒している。【新基礎】
- 3) 1クラスで半数以上が現地化している一方、生活環境で日本語を耳にする機会が必ずしも少なくない。【新基礎】
- 4) 学習歴に比して読みの能力が低い学校がある。→学習時間の短さか、指導方法の問題か、現地化が進み学習動機に問題があるのかは不明【ひろこさん】
- 5) 学習歴に比して書く力が低い高校生や成人もいる。→効果的な方法の検討が必要。【ひろこさん】
- 6) 中南米の環境において話す力を伸ばすことは難しい。【ひろこさん】→読み書き中心の指導方法では解決できない。
- 7) 日本語だけでわかる子ども達の現地語の習得状況の把握が必要。【ひろこさん】
- 8) 移住地の子供たちで、日本語で自然に話したり聞き取ったりは出来る。→無意識化している日本語表現をしっかり意識化し、体系的な学習に力をいれることが大切。【ひろこさん】

(2) 教授者についての問題点および提言

- 1) 教科書の主目的と教師の使用目的とが一致しない例がある。【ひろこさん】【一、二、三】【新基礎】→修正しながらの使用は必要不可欠。
- 2) 教授者の側で日本語教育と国語教育の違いの認識がされていないと思われる例がある。【ひろこさん】
日本語教育用教科書で指導を行いながらも、その意識において国語教育から脱皮しきれていない部分があることも想像に難くない。【新基礎】
- 3) 日本語を外国語として客観的に分析できる、つまり外国語としての日本語指導のできる教授者が少ないと思われる例もある。【ひろこさん】
- 4) 教科書を使って読み書き指導はできるが、コミュニケーション能力を伸ばす指導のできる教師が必要である。【ひろこさん】

- 5) 日本語力のない教授者が増えている。→現地語と日本語を駆使できる若い指導者の育成が急がれる。【ひろこさん】
- 6) 会話を暗唱させ、さらに使えるようにするためには、教師に直接法による教授法の基礎がなければならない。→あまり訓練を受けていない教師でも使えることがポイントのひとつ。【一、二、三】

(3) 学校の方針についての問題点および提言

- 1) 学習者よりも立派なカリキュラムを作ることが優先される例がある。【ひろこさん】
- 2) 日本語は日本語で教えるという方針が立てられている。【みどり先生】
- 3) カリキュラムのない学校もあり、計画性・継続性という点から問題がある。【一、二、三】【日墨】
- 4) 日本語教材としては、『会話力養成』に役立つものが求められるわけだが、一方、『読み書き能力の養成』も学校として力を入れたいところのようだ。ただ、目的が達せられていないのではないのか。【新基礎】
- 5) 日本文化を身につけさせ、日系人としての自信を持たせるという部分は、変わらず掲げられているものであろうが、現地化した子どもたちへの日本語教育となれば、場合によっては押し付けにもなりかねず、日本語力養成のマイナス材料にならぬようにという配慮は、今後、より必要になってくるであろう。【新基礎】
- 6) カリキュラムのある学校ほど既に国語教科書の使用に工夫や改善を施している傾向にある。【国語】

(4) 教授/学習活動についての問題点および提言

- 1) 日本の文化や行事を日本語授業と切り離してイベントを行う→教室活動に取り込んだ形で、準備段階から工夫して意識的に日本語習得を考えて進めることが今後の課題。【ひろこさん】
- 2) 覚えた文の暗唱をもって『会話』としているのではないか、自己表現としての発話にまで到達しているのか。【一、二、三】
- 3) (教科書本来の使用目的とずれている活動である) 本文等を読ませる・書かせるという回答がある。【一、二、三】
- 4) 日本語能力の低下で読解学習としての成果をあげられなくなっている。読みを支える言語事項や言語技術の体系立った指導は見られない。作文用単元が作文指導に活用されているという例もない。【国語】

(5) 教科書・教材についての問題点および提言

- 1) 絵の多い教材が子どもたちにとってなじみやすいであろう。【一、二、三】
- 2) 単語レベルの児童にとっては文型方式の教科書はそのままでは退屈であろう。【日墨】
- 3) 日本文化・人間形成面の指向と父母の希望とが国語教科書の使用につながる。しかし、近年、学習者の日本語能力の不足に国語教科書では対応しきれなくなる。【国語】
- 4) 日本語能力の低下が学習者に自分の学齢よりも下の学年の国語教科書を使うという、心理的抵抗

感を生んでいる。【国語】

- 5) 学習者にとって知的チャレンジを教科書の内容から得ることは難しい。【みどり先生】
- 6) コミュニケーション能力を高めるための教材が求められている。【ひろこさん】
- 7) 各国でその状況にあった教科書とその国で作成することが望ましい。→それを作成するために必要な材料と手法のリソースの作成と提供が適している。【ひろこさん】
- 8) 初級文型・文法の定着が目的とされている。グループ形態でのテーマ学習とかプロジェクト・ワークとかを考えた場合は、異なる教材が必要になる。【みどり先生】
- 9) 本冊のほかに、練習帳、指導要領、活動集、テープ、文型ドリル帳などが希望されている。【みどり先生】
- 10) あまり訓練を受けていない教師でもそこそこ使えるということが中南米日本語教科書の重要なポイントのひとつとなる。【一、二、三】
- 11) 現地事情としてはオール・イン・ワンの教科書が望まれる。【一、二、三】
- 12) 他人のオーダーメイドの服を無理をして着ようとするに等しい。軽くて着やすい既製服（イメージ・オーダーであればもっとよいが）の一刻も早い開発が待たれる。【日墨】
- 13) 国語教科書を日本語教育に活用する方法、汎米風に、日本語教育と国語教育を統一する試みを考えてみる意義がある。【国語】

以上のように様々な問題点の指摘と提言がなされている。分析教材や学習者が異なっていることもあり、すべての提言が必ずしも一致しているわけではない。ただ、現地における日本語教育がもはや母語教育の時代ではないこと、これまでの教材と使用法では現状に対応できていないことという共通の認識は見られる。すべての提言を同時に満足することは不可能であるが、共通の認識に立った、新しい教材開発の方向性は示唆されているのではないだろうか。

現在、世界の様々な地域で、日本語教育の国家的な標準や指針を作る動きが始まっている。中南米諸国ではどのような教育政策、外国語施策の動きがあるのだろうか。それぞれの国の子供たちがスペイン語以外の言語が使えるようになることは、どのように評価されているのだろうか。日本国内の人間が教材開発に協力したり、派遣教員として着任する時には、各国の言語政策、言語教育政策、教育観、日本語教育の実態などについて、より正確な情報をつかむ必要がある。中南米圏においては、日本語は英語、ポルトガル語、また、他のいくつかのヨーロッパの言語に比して、重要性において劣る位置にある。日系であるからという理由だけで、日本語学習を継続することは難しい。まして、スペイン語と日本語との高度なバイリンガルを目指すには、それなりの決意と自覚が、保護者にも日系子弟自身にも必要である。学習者自身の動機があまり強くない中途半端な学習は、時間と労力の無駄になりかねない。（無論、言語習得にはつながらなくても、日本語学校での教育が将来の自身のアイデンティティ確立や日本への文化的関心に寄与する面は当然あるが、強制された学習が日本との出会いを遠ざける可能性も否定できない。）

そのような中であって、日本語学習に対する学習者自身の動機を強めるためには、他の外国語教

育と同等かそれ以上の魅力的な日本語教育となる必要がある。日本語習得が学習者の生活（進学・キャリアなど）にもたらす利益といった長期的な目標のほかに、学習過程それ自体が喜びとなる必要がある。そのためには前述の「乖離」例を解消するだけでなく、他の外国語教育よりも一歩進んだ魅力的な日本語教育を提供することが望まれる。そこで教材開発は不可欠であるが、調査→諸国連携チームによる教材開発→現場教授者のためのワークショップの開催→フィードバック→教材開発→実験授業・調査 といった流れの行き来が必要である。つまり、まず本調査をはじめとするニーズ調査、各国の言語環境や教育政策、教育観、外国語施策の調査などが最初に望まれる。そして、スペイン語圏の各国の日本語教育関係者による、「継承語としての日本語教育」、「外国語としての日本語教育」のゆるやかなガイドライン作りが望まれ、各国のガイドラインに沿った教科書、ガイドラインに抵触することのない教科書がひとつのモデル的なものとして開発されることが望ましい。開発にあたっては、各国の日本語教育関係者同士、そして、国内の日本語教育関係者との連携による教材開発チームの形成が望ましい。

また、教材開発は常に教育現場に密接に結びついたものであるべきで、実験校、あるいは、協力校との試用の中で開発されていく形が必要である。その際、教材開発者および教授者の声だけでなく、学習者および保護者、そして、広くコミュニティーの声を取り込んでいくことが強く望まれる。

ひとつのモデル案が、ある程度の完成段階に到達した際には、ワークショップを開催し、より広い現場での応用、つまり、ひとつのモデルから、それぞれの現場にあわせた教材作成および利用の動きが起こることが望まれる。そのプロセスの中での教授者、学習者、保護者、コミュニティーの声の収集、フィードバックを得た教材開発チームが新たな実験授業・調査の中で、試用版の改善を行うといった流れを、出来れば繰り返すというのが理想であろう。

また、中心教材は学習者の知的レベルにふさわしい内容と、日本語レベルの段階を備えたものであってほしい。同じ知的レベルにあっても、学習の進んだ生徒が上級語彙リストなども学習するのは当然である。様々なメディアによる副教材の作成、各国版などの作成も望ましい。日本語教師のためのメディア・リテラシー教育なども必要である。高度情報化時代の到来によって、どの国においても、言語生活を営む上でも、教育の上でもメディアの変化が起きている。21世紀には衛星通信の利用、コンピュータの利用、インターネットの利用などが各国ともにさらに推進されるであろう。ペルーを例にとれば、リマヤクスコで、大学のみならず、かなりの数のインターネットカフェでインターネットの利用がされているという。機械上の多言語環境も整いつつある。日本語教育関係者は今後メディアの変化、教育情報の変化を十分に活用できる能力を身につける必要がある。例えば「これは本です。私はアルゼンチン人です。」といった教科書の中の日本文の学習には何の情熱も示さない子供達が日本の子供とのインターネット通信で日本から自分にあてた返信が来ると、必死に自分で辞書を引き始める。さらに、その内容をクラスで発表するために、辞書の使用を覚え、日本語学習に情熱を持ちはじめるといった状況が起きつつあり、それはひと時代前の郵便による文通時代とは比べようもないスピードと便利さの中で実践されていく。これはインターネットの適切な使用の1例と言えよう。

しかし、このことは石とか枝といった原始的メディアや、鉛筆とか紙とかいった基礎的メディア

を否定するものではない。学習の目的によって、内容とメディアは異なって当然である。ただ、これからの時代コンピュータ、衛星放送、OHP、ビデオ、紙等の種々の媒介を使いこなすことの出来ない教師の活躍分野はきわめて限られたものになる。要は教授内容にふさわしい組み合わせが出来る能力が今後の教授者には必要であり、そのためのメディア・リテラシー教育が、教科書の開発を考える時、共に視野に入れられるべきではないだろうか。

今回の限られた範囲の調査からも、現時点で教材開発が必要なこと、それが中南米の現場と日本との密接な連携のもとに進められるべきことがわかった。各国の日本語教育の指針を知ることがまずある。その上で、中南米諸国と日本、教材開発者と現場、教材開発者である教授者と教材開発には参画しない教授者、教授者と学習者などの間のやりとりから出てくる複数の声を取り入れつつ進む日本語教材開発が、以前にもまして求められている。概況調査5の回答の大半に應えるだけの経済的基盤も技術力も現在の日本には存在しており、物理的距離は通信システムの発達でかなり克服できよう。関係者の努力によってこれらを実現していくことが強く望まれる。

資 料

(調 查 票)

- ・ 概況調査票 (資料－ 1)
- ・ 詳細調査票
 - A: 学校別調査票 (資料－ 2)
 - B: 教科書別調査票 (資料－ 3)

あなたの学校についてお尋ねします。

1 カリキュラム

- 1 あなたの学校では年間のカリキュラムが決まっていますか。
- 決まっている おおまかに決まっている
- カリキュラムは固定せず、臨機応変にやっている
- 作成中 作っていない
- 2 カリキュラムが決まっているなら、この票と一緒に送ってもらえますか。
- はい いいえ

きょういく もくてき

2 教育の目的

- 1 日本語の力を伸ばすこと以外にも目的があったら書いてください。
- 日本文化に対する理解を深める
- 情操面の発達に働きかける
- 理科や算数などの教科を理解する力を育てる
- 日系人としての自信を持たせる
- その他

もと きょうかしよ

3 求められる教科書

- 1 今、あなたの学校で新しい教科書を使うとしたら、どのような教科書が使いたいですか。
- どんなことでも結構ですから、ほしいと思う教科書の条件をお書きください。
- 子供の興味を引く教材
- 話せるようになる教材
- 文法や文型がきちんと理解できるような教材
- 日本の文化も身に付けられるような教材
- 中南米の文化を採り入れた教材
- 複式授業に使いやすい教材
- 日本語能力試験に対応した内容の教材
- 芸術的な面も育てられる教材

- かんが ちから そだ きょうざい
考える力も育てられる教材
- すうがく ほか きょうか きょうざい
数学などの他の教科とつながりがある教材
- きょうしつがい ほしよ にほんご つか つく きょうざい
教室以外の場所でも日本語を使うように作られた教材
- にっけいじん じしん も きょうざい
日系人としての自信を持たせるような教材
- た
その他
-
-
-

2 きょうかしょ いっしょ つく か
教科書と一緒に作ってほしいものがあつたら、お書きください。

- しどうようりよう
指導要領 (マニュアル)
- かんじれんしゅうちよう
漢字練習帳
- かつどうしゅう
ゲームなどの活動集
- テープ
- ぶんけい ちよう
文型ドリル帳
- た
その他
-

ごけんねんしゅうしやむ きょうざい つく きょうりよく
JICAでスペイン語圏年少者向け教材を作ることになったら、ご協力いただけますか。

- はい いいえ

こた たず きょうりよく
「はい」と答えたかたにお尋ねします。どんなことに協力していただけますか。

- つく きょうりよく
作ることに協力できる
- つか きょうりよく
使うことに協力できる

ごきょうりよく
御協力ありがとうございました。

きょうかしよめい
教科書名 [_____]

しゅつぽんしやめい
出版者名 [_____]

ちよしやめい
著者名 [_____]

きょうかしよ しよじよきよ たず
この教科書の使用状況についてお尋ねします。

たいしよ

1 対象

きょうかしよ つか
1 この教科書を使っているクラスはいくつありますか。

ぜんこう つか
全校 _____ クラスのうち、 _____ クラスで使っている。

ひと えら こた
2 そのクラスはどんなクラスですか。クラスを一つ選んでお答えください。

めいしよ
クラスの名称 _____

せいと かず にん
生徒の数 _____ 人

せいと ねんれい さい さい
生徒の年齢 _____ 才 ~ _____ 才

せいと がくねん ねんせい ねんせい
生徒の学年 _____ 年生 ~ _____ 年生

にほんご がくしゆうれき がっこう がくしゆ きかん かにい がくしゆ ふく
日本語の学習歴 (学校などで学習した期間。家庭での学習を含みません)

ねん ねん
_____ 年 ~ _____ 年くらい

にほんごりよく さ
日本語力の差

みな同じくらいであり差がない

少し差がある

大きな差がある

3 そのクラスの生徒たちはいつもどんな場面で日本語を使っていますか。

かにい なか つか にん
家庭の中で使う _____ 人

がっこう なか つか にん
学校の中で使う _____ 人

かにい がっこういがい つか にん
家庭や学校以外のところで使う _____ 人

4 そのクラスの生徒たちの日本語のレベルはどのくらいですか。

ぜんたい かんが わりあい こた
クラス全体を100%と考えて、割合を%で答えてください。

もじ よ ちから よ ていと せいと
文字を読む力 かなが読める程度の生徒 _____ %

かんじ すこ よ ていと しみまん
漢字が少し読める程度 (100字未満) _____ %

かんじ よ じいじよ
漢字がよく読める (100字以上) _____ %

ごうけい
合計 100%

ぶん よ ちから ねんせいていと
文を読む力 ※日本の学校の教科書で _____ 年生程度 _____ %

か ねんせいていと
※書きやすいほうに _____ 年生程度 _____ %
書いてください

にほんご きょうかしよ ねんせいていと
※日本語の教科書で _____ 初級程度 _____ %

		ちゅうきゅうていど 中級程度	_____ %
		じょうきゅうていど 上級程度	_____ %
		ごうけい 合計	100 %
か ちから 書く力	たんご か ていど せいと 単語が書ける程度の生徒		_____ %
	かんたん ぶん か ていど 簡単な文が書ける程度		_____ %
	みじか ざくぶん か ていど 短い作文が書ける程度		_____ %
	ほうこくぶん かんそうぶん ぶん か 報告文や感想文などいろいろな文が書ける		_____ %
		ごうけい 合計	100 %
はな ちから 話す力	たんご あいさつていど 単語や挨拶程度		_____ %
	かんたん ぶん なら なん つた 簡単な文を並べて何とか伝える		_____ %
	ふだん せいかつ ふべん 普段の生活に不便はない		_____ %
		ごうけい 合計	100 %
き ちから 聞く力	たんご あいさつていど 単語や挨拶程度		_____ %
	なら かんたん ぶん 習ったことのある簡単な文がわかる		_____ %
	かてい つか 家庭で使うことばがわかる		_____ %
	ふだん せいかつ ふべん 普段の生活に不便はない		_____ %
		ごうけい 合計	100 %
せんせい しじ 先生の指示	にほんご 日本語だけでわかる		_____ %
	かんたん にほんご 簡単な日本語ならわかる		_____ %
	ご スペイン語がないとわからない		_____ %
		ごうけい 合計	100 %

しようもくてき ひょうか

2 使用目的と評価

1 この教科書は主にどんな力を伸ばすために使っていますか。
 (4技能(複数可・二つ以上選んでもかまいません))

<input type="checkbox"/> 読む力	<input type="checkbox"/> 話す力
<input type="checkbox"/> 書く力	<input type="checkbox"/> 聞く力

2 この教科書を使ってみて、よいと思う点はどんなところですか。(複数可)

<input type="checkbox"/> 生徒のレベルに合っている	<input type="checkbox"/> 量がちょうどいい
<input type="checkbox"/> 生徒の好みに合っている	<input type="checkbox"/> 練習問題がよくできている
<input type="checkbox"/> 学習目標と合っている	<input type="checkbox"/> 教えやすい

その他[]

3 この教科書の満足度を数字で表すと何%ぐらいですか。

_____ %

4 この教科書で満足できない点はどんなところですか。(複数可)

- 全体的に量が多すぎる
- 全体的に量が少なすぎる
- 練習問題の量が多すぎる
- 練習問題の量が少なすぎる
- 口頭練習の問題が足りない
- 読み書きの問題が足りない
- ローマ字がついていない
- 漢字のふりがながよくない
- シラバス(学習項目の配列の仕方)が合わない
- 教え方がわかりにくい
- とりあげている語彙や主題があわない
- 生徒のレベルにあわない
- 授業の準備がしにくい
- 生徒が好まない
- 付属の教材が少ない
- 手に入りにくい
- 値段が高い

その他

3 指導者

1 この教科書を使っている教師は何人いますか。

全校 _____ 人のうち、 _____ 人で使っている

そのうち、1世教師が _____ 人・2世、3世教師が _____ 人

シニアが _____ 人・青年ボランティアが _____ 人

2 では、その教師の中で、日本語教育の専門研修を受けた人は何人いますか。

_____ 人

それはどんな研修ですか。選んでください。(複数可)

- JICAの汎米研修
- 国際交流基金の日本語教師研修
- JICAの日本語教師研修
- その他[]

せんせい にほんごきょういくけいけん

3 先生たちの日本語教育経験はどのくらいですか。

ねん かげつ ねん
年 月～ 年

きょうしつかつどう

4 教室活動

きょうかしょ つか じゆぎょう かつどう

この教科書を使った授業ではどんな活動をしますか。

せんせい ちが ばあい こた
先生によってやりかたが違う場合、あなたのやりかたでお答えください。

かつどう えら ふくすうか
1 よくする活動を選んでください。(複数可)

- ほんぶん かいわぶん よ き よ やく
本文や会話文を 読み聞かせる 読ませる 訳させる
- 書かせる 覚えさせる 会話させる
- 演じさせる

その他 []

- あたらし ふんけい よ やく はな
新しい文型を 読ませる 訳させる 話させる
- 書かせる 覚えさせる

その他 []

- あたらし よ やく はな
新しいことばを 読ませる 訳させる 話させる
- 書かせる 覚えさせる

その他 []

- あたらし かんじ よ か おぼ
新しい漢字を 読ませる 書かせる 覚えさせる

その他 []

え おと からだ つか かつどう
絵や音、体を使った活動もしますか。

- え か うた うた おど
絵を書く 歌を歌う 踊る
- こうさく かみしばい
工作する 紙芝居 ゲーム
- スポーツ その他 []
- しない

けいたい かつどう
2 どんな形態で活動しますか。

- いっせいじゆぎょう いつもする ときどきする しない
一斉授業

- ふたりひとくみ さぎょう いつもする ときどきする しない
グループや二人一組の作業

- いつもする ときどきする しない

- こべつじゆぎょう いつもする ときどきする しない
個別授業

その他の形 []

ふくしきじゆぎよう

複式授業

いつもする

ときどきする

しない

きようかしよ つか

ほじよきようざい

きようぐ

3 この教科書を使うとき、どんな補助教材・教具を使いますか。

テープ

ビデオ

絵カード

文字カード

ドリル帳

その他 []

4 スペイン語を使いますか。

まったく使わない

ときどき使う

よく使う

5 教科書の選択と関連性

1 使う教科書はどうやって選ぶのですか。

そのクラスを教える教師が選ぶ

クラスの担任が選ぶ

会議などで相談して選ぶ

学校が決める

その他 []

2 この教科書が選ばれた理由は何ですか。

3 この教科書はこの学校でどのくらいの期間使われていますか。

年 月

4 この教科書が終わった生徒には、次にどんな教材を使いますか。

教材名

著者・出版社

決まっていない

5 この教科書に入る前に生徒は、どんな教材を使って勉強しましたか。

教材名

著者・出版社

ごきようりよく

御協力ありがとうございました。

海外日系子弟日本語教育研究会
日本語教科書開発基礎調査調査委員会

委員長 西川 猛（昭和女子大学短大 講師）

執筆者（掲載順）

調査の背景／調査の目的／概況調査

梅田 康子（財団法人 海外日系人協会 日本語教育専門嘱託）

詳細調査分析

『ひろこさんのたのしいにほんご』

関口 明子（社団法人 国際日本語普及協会 事業部長）

『みどり先生のにほんご』

佐々木 倫子（国立国語研究所日本語教育センター 日本語教育指導普及部長）

『一二三、日本語ではなしましょう』『日墨学院にほんご教科書』

江副 隆愛（新宿日本語学校 理事長）

岩垣 文明（新宿日本語学校 教務主任）

『新日本語の基礎』

楫 光可（社団法人 国際日本語普及協会 教育事業副部長）

『光村図書、教育出版』

長野 正（玉川大学 文学部教育学科 助教授）

考察と展望

佐々木 倫子（国立国語研究所日本語教育センター 日本語教育指導普及部長）

データ集計表

土方 陽美（財団法人 海外日系人協会 調査研究室）



JICA